


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

他者に自分の活動内容や考えを分かりやすく伝えるための ICT 活用 「校内実習の取り組みのプレゼンテーションの編集・発表」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部1年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の動作をはじめ、文字を書く際にも時間がかかってしまい、他の生徒を待たせることが多い。 ・パソコンでの文書入力では、ローマ字入力や漢字変換が正確にでき、比較的速くキーを打つことができる。 ・人前ではほとんど話さなかったり、言葉を発するまでに時間がかかったりする。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	職業
	単元(題材名)	題材名「校内実習の取り組みをプレゼンテーションしよう」
	単元(題材)の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実習の所属班や作業内容、目標、取り組みの成果と課題、将来就きたい職業をプレゼンテーションソフトを活用して編集し、発表する。 ・他者のプレゼンテーションの工夫点や発表の仕方に着目しながら、他者の進路に関心をもつ。
教材・教具支援機器について	教材・教具支援機器	
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者に分かりやすいように簡潔に内容をまとめるとともに、文字の色や大きさ、配置、画像の取り込みなどを工夫して、プレゼンテーションを作成することができる。 ○他者に自分の体験したことや考えを伝えるための方法の一つとして、プレゼンテーションソフトを活用することを知り、その良さに気付くことができる。 ○プレゼンテーションをもとに自信をもって発表しようとする。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が作成したプレゼンテーションソフトを見本として提示し、作成への意欲を高めた。
	材料・作成方法等	パソコン
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・見本を提示したことでデザインの方法が分かり、積極的に作成することができた。 ・発表場面では、プレゼンテーションを操作し、順番に読み上げる活動であったため、活動内容が分かりやすく、自信をもって行うことができた。

(令和4年度)